

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. チェンジ音楽シリーズ2 こうすればできる“ピアノに頼らない”音楽授業	共著	2010年5月	明治図書(69-73頁)	鈴木範之「⑨子どもたちがとびくつ音楽づくり～音まねことば(低学年)」(69-73頁/全144)。器楽導入活動として、擬音語を活用した音楽活動を紹介した。入山克己・濱田稔子編著、田中健次監修。
2. 保育の道をめざす人へのアドバイスー養成校での学び方から就職活動まで	共著	2012年3月	みらい(77-97頁)	鈴木範之「第4章 保育にピアノは必要か?ー保育に求められる音楽の能力とはー」(75-97頁/全187頁)。ピアノの演奏技術に比重が置かれがちな保育音楽において、「きく」「うたう」「ひく」「うごく」「つくる」という5つの音楽行為に着目し、それぞれの実践例を紹介した。紙透雅子著。
3. コードでかんたん! ピアノ弾き歌い80	共著	2014年4月	圭文社(全166頁)	鈴木範之・岡部玲子共著。第1部コード弾き歌いメソッド、第2部子どもの歌、第3部小学校共通歌唱教材の3部構成。すべての曲についてコード奏法を重視したアレンジを施し、一部の曲を除いて2パターンのアレンジを掲載した。初心者にとって難しい片手伴奏からではなく、易しい両手伴奏からステップ形式で系統的に学ぶことができるメソッドである。全166頁。
4. 児童文化の中に見られる言語表現	共著	2014年10月	大学教育出版(62-77頁)	鈴木範之「第4章 音楽活動時における保育者の言葉」(62-77頁/全159頁)。音楽活動時における保育者の「指示」と「発問」に焦点を当て、音楽技能と教育技術の差別化の必要性及び間接的指導言の有用性について述べた。三宅光一編著。
5. オルフ・シュールヴェルクの研究と実践	共著	2015年7月	朝日出版社(144-167頁)	鈴木範之「第3部資料編14-4. オルフ関連資料のリスト」(pp. 144-167/全184頁)。日本の音楽教育に大きな影響を与えたカール・オルフの関連資料(論文、書籍、雑誌記事、楽譜、音源)のリストをまとめた。日本オルフ音楽教育研究会著。

<p>6. 言葉の響き・リズムと出合うパネルシアター</p>	<p>共著</p>	<p>2020年10月</p>	<p>大東出版社</p>	<p>言葉の響き・リズムを生かしたパネルシアター作品集。オリジナル作品「しましまおさんぽ」を掲載。高橋司編。著者：鈴木範之、関康生、高橋小百合、松家まきこ</p>
<p>7. 実践心ふれあう子どもと表現</p>	<p>共著</p>	<p>2021年2月</p>	<p>みらい</p>	<p>保育者養成課程における総合的な「表現」のテキスト。領域「表現」の理論と、音楽表現・身体表現・造形表現と総合的な表現活動の実践例をまとめた全176頁。第1章、第3章1、Ⅲ部2、column3・4を執筆。松家まきこ・鈴木範之編。著者：いわいごこまゆ、おおやますし、金子しんぺい、岸川良子、熊倉佐和子、新沢としひこ、児嶋輝美、土橋久美子、西村愛子、松田聖子、松本哲平、森麻美。</p>
<p>8. よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック</p>	<p>共著</p>	<p>2022年4月</p>	<p>ミネルヴァ書房</p>	<p>幼稚園教諭、保育士を目指す人のための「児童文化」に関するテキスト。第2章児童文化財と保育10コマ目「わらべうたと手遊び」を執筆。松本峰雄監修。著者：遠藤純、大野雄子、岡崎裕美、尾山祥子、才郷真弓、鈴木範之、高橋小百合、高橋司、田中幸、福澤惇也、藤田圭子、松本峰雄。</p>
<p>(学術論文(欧文)) 1. Self-directed dramatic and music play programs enhance executive function in Japanese children (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2021年9月</p>	<p>Trends in Neuroscience and Education 24</p>	<p>日本の幼児の実行機能発達に対する遊びプログラムの有効性を調査した。演劇的遊びと音楽的遊びのプログラムを受けた幼児は対照群の幼児と比較して作業記憶と抑制機能に有意な効果が見られた。幼児の自主性に焦点を当てた日課は、幼児の実行機能の発達を促進することを明らかにした。(Taku Kosokabe, Makoto Mizusaki, Wakako Nagaoka, Miwa Honda, Noriyuki Suzuki, Reiko Naoi, Yusuke Moriguchi)</p>
<p>(学術論文(和文)) 1. 「音楽科教育における〈即興表現〉に関する一考察」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年1月</p>	<p>東京学芸大学大学院修士論文</p>	<p>音楽科教育における〈即興表現〉の位置づけ及び教育的意義について論じたものである。〈即興表現〉の歴史的変遷の概観や、〈即興〉を主体とした学習を提供する音楽教育システムの理念についての考察を通して、〈即興表現〉を表現活動の〈基点〉として位置づけた。〈即興表現〉で最も重視されるべき点はその〈推敲過程〉であり、その中で育まれる〈創造性〉や〈表現力〉が〈音楽的コミュニケーション能力の向上〉へとつながることを提起した。</p>

<p>2. 「＜即興表現＞における学習のあり方に関する一考察—＜制約＞という観点を中心として」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年8月</p>	<p>音楽学習研究第2巻 (音楽学習学会、2006) 11-16頁</p>	<p>様々な形態が存在する＜即興表現＞における学習のあり方について＜制約＞という観点から述べたものである。＜即興＞を主体とし、わが国の音楽教育思潮に大きな影響を与えた2つの音楽教育システム(「オルフ・アプローチ」「創造的音楽学習」)を取り上げ、＜制約＞という観点から分類を試みた。多様に存在する＜即興表現＞活動を＜制約＞という観点から構成していくことで、学習のあり方を方向づけることができると提起した。</p>
<p>3. 「音楽科教科書における＜即興表現＞教材の検討」</p>	<p>単著</p>	<p>2007年8月</p>	<p>教材学研究第18巻 (日本教材学会、2007) 61-68頁</p>	<p>音楽科教科書における＜即興表現＞き教材の分析を通して、その特徴や問題点を明らかにし、＜即興表現＞教材のあり方について述べたものである。＜即興表現＞の学習構造を考察した上で、「＜即興表現＞における＜自由＞と＜制約＞」という観点から、数量的なアプローチと内容分析を中心としたアプローチにより、分類・整理を試みた。教科書における＜即興表現＞教材には継続性・系統性が希薄であるという問題点を導き出し、＜即興表現＞を＜創作＞領域のみならず、他領域との関連性を持たせることの重要性を提言した。</p>
<p>(紀要論文)</p>				
<p>1. 器楽導入時における授業づくりに関する一考察</p>	<p>単著</p>	<p>2010年3月</p>	<p>おおみか教育研究第13巻 (茨城キリスト教大学大学院文学研究科教育学専攻) 7-12頁</p>	<p>器楽導入時における授業づくりについて、4つの音楽授業活動を事例に挙げ、「楽しさ」と「学び」の視点から、特にその「教育内容」に着目して考察した。</p>
<p>2. 幼稚園教諭・保育士養成校における楽典指導に関する考察</p>	<p>単著</p>	<p>2011年3月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要第39号 (常磐短期大学) 87-95頁</p>	<p>幼稚園教諭・保育士養成校における楽典指導について、楽典内容の整理と系統化を試み、構造的な指導法について考察した。(研究ノートとして受理)</p>
<p>3. 音楽的要素と音楽外的要素による＜即興＞に関する考察—英国王立音楽検定の分析に基づいて—</p>	<p>単著</p>	<p>2013年1月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要第41号 (常磐短期大学) 1-16頁</p>	<p>英国王立音楽検定のプラクティカル・ミュージシャンシップにおける即興演奏の課題を分析し、＜即興＞の系統性について述べたものである。音楽的要素と音楽外的要素における＜即興＞の関係性を明らかにし、小学校音楽科教育の音楽づくりへの重要な示唆があることを導いた。(原著論文として受理)</p>

4. ピアノ弾き歌い再考	共著	2017年3月	常磐短期大学研究紀要第45号（常磐短期大学）14-22頁	保育者養成課程における「ピアノ弾き歌い」について、歴史的観点および演奏行為の分析から再考。保育においてピアノが必須の技能となった背景を文献調査した。さらに演奏行為の分析により、指導法がピアノ偏重になりやすい要因は、読譜および科目による専門性の分割であることを考察した。岡村麻未（声楽、常磐短期大学非常勤講師）と共同執筆。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。（研究ノートとして受理）
5. 保育におけるピアノ・オルガン使用の歴史的探究—明治期の唱歌教育における伴奏楽器と楽器産業の関係性について—	共著	2018年3月	常磐短期大学研究紀要第46号（常磐短期大学）73-82頁	明治期のピアノ・オルガン導入の軌跡を辿り、なぜ保育においてピアノ・オルガンが使用されるようになったのか、明治初期の幼稚園における楽器について、明治中期における楽器産業という2つの視点からアプローチした。明治20（1887）年以降の楽器産業では、山葉寅楠や鈴木政吉といった後の楽器産業の創業者の出現、内国博への楽器出品による質の向上、楽器製作の事業化により、大きな成長・発展を遂げた。このことが保育・教育現場で用いられる伴奏楽器の選定に大きな影響を及ぼしたことが明らかとなった。 （pp. 73～82 ; 1～4の内、1、3、4を分担執筆）著者：鈴木範之、岡村麻未（研究ノートとして受理）
6. 保育者養成校におけるウクレレ弾き歌い指導の試み	単著	2019年3月	常磐短期大学研究紀要第47号（常磐短期大学）35-44頁	ウクレレによる弾き歌いの授業実践とアンケート調査を基に、保育における伴奏楽器としてウクレレを用いることの可能性を考察した。ウクレレは楽器自体が小ぶりで持ち運びしやすいことや、あそびうたを子どもたちと一緒に動きながら奏でられることがメリットである。ピアノに比べて「難しい」と感じた学生は約6割近くいた一方で、約8割の学生が「保育に生かせると思う」と回答したことから、演奏技能的な課題はありつつも保育への活用を展望を見出した。（研究ノートとして受理）

<p>7. ピアノ弾き歌い指導に関する考察</p>	<p>単著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要第48号（常磐短期大学）15-31頁</p>	<p>幼稚園教育実習後のアンケートを通して、幼稚園教育実習の音楽表現活動に関する実態や課題を把握し、保育者養成校におけるピアノ弾き歌い指導について考察した。実習における課題の分量には偏りが見られ、課題の分量に一定の基準を持たせるなどして、負担の偏りを小さくする仕組みづくりが必要である。音楽表現活動で実習生が感じる困難や不安には、【音楽的技術】【指導技術】【教材研究】【環境】などがあり、実習と専門科目を関連づけるような授業運営の工夫が必要である。養成校と実習園の連携を強化し、実習生の不安要素を払拭させるためのサポートを充実することが必要である。（研究ノートとして受理）</p>
<p>8. 遠隔によるピアノ弾き歌い指導の可能性と課題—ブレンデッドラーニングシステムの応用を目指して—</p>	<p>共著</p>	<p>2021年3月</p>	<p>『教職センター紀要』第5号（常磐大学教職センター）pp. 35-47</p>	<p>ICT を活用したピアノ指導研究の文献調査および様々な対象における遠隔によるピアノ指導実践の省察を通し、遠隔によるピアノ弾き歌い指導の可能性や課題について考察した。著者：鈴木範之・藤岡由記・阪まどか</p>
<p>9. 幼稚園教育要領における領域「表現」の変遷と内容分析</p>	<p>単著</p>	<p>2022年3月</p>	<p>『教職センター紀要』第6号（常磐大学教職センター）pp. 75-87</p>	<p>本研究は、幼稚園教育要領の領域「音楽リズム」「表現」の史的変遷を俯瞰し、現行の幼稚園教育要領における領域「表現」の特徴、幼児期に求められている表現とは何かを明らかにすることを目的とするものである。領域「音楽リズム」「表現」のねらい、内容、留意事項・内容の取扱いを、テキストマイニングの手法の一つであるKH Coderを用いて分析した。分析の結果、①「表現」の意味の拡張、②技術習得から素朴な表現の気付きへ、③環境の捉え方の変化という3点の特徴が浮き彫りとなった。</p>

<p>10. 明治初期のピアノ導入の経緯を探る—幼児教育、体操教育、音楽教育、楽器産業の視点から—</p>	<p>共著</p>	<p>2023年3月</p>	<p>『教職センター紀要』第7号（常磐大学教職センター） pp. 17-33</p>	<p>本研究は、明治初期の幼児教育、音楽教育、体操教育に焦点を当て、それぞれの分野においてどのような文脈からピアノが用いられるようになったのか、その背景と経緯を探り、さらにそこに楽器産業界がどのように介入してきたのかを明らかにすることを目的とするものである。日本の音楽教育黎明期である明治初期は、幼児教育、体操教育においてピアノを必要とする教育政策を打ち出したものの、ピアノを弾ける者は限られていたため、音楽指導者を育成し、同時に唱歌教育の伴奏楽器を模索していた時代であった。それまでピアノやオルガンは海外からの輸入に頼るしかなかったが、西川虎吉、山葉寅楠らがオルガンの国内製造を成功させ、教育界と楽器産業の両者の思惑の一致、相互の協力により、うまく両輪を回していった。調律という課題はあったにせよ、西洋音階を簡単に奏でられるピアノやオルガンは、当時西洋音階の感覚を持っていなかった日本人にとって必要不可欠な楽器として受け入れられた。（分担執筆：鈴木範之1. 4. 6.、阪まどか2.、深澤南土実3.、宮崎真利子：5.）</p>
<p>(辞書・翻訳書等)</p> <p>1.</p>				
<p>(報告書・会報等)</p> <p>1. オルフ「子どものための音楽」通信第29号</p> <p>2. 「幼児音楽研究」幼児音楽研究会機関誌2010年春号（通巻第47号）</p> <p>3. オルフ「子どものための音楽」通信第38号</p> <p>4. オルフ「子どものための音楽」通信第40号</p> <p>5. 「音と動きの研究」41（2013）</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2007年8月</p> <p>2010年6月</p> <p>2012年6月</p> <p>2013年5月</p> <p>2013年12月</p>	<p>日本オルフ音楽教育研究会（28-29頁）</p> <p>幼児音楽研究会（6-7頁）</p> <p>日本オルフ音楽教育研究会（13-14頁）</p> <p>日本オルフ音楽教育研究会（13, 16, 45-46頁）</p> <p>日本オルフ音楽教育研究会（20-21頁）</p>	<p>黒田昭子、新谷泰子「絵本を使ったピアノ遊び」についての報告。</p> <p>井上勢津「小さなコミュニティをつくる～『0歳児とパパ・ママ』のためのミュージックサークル」を通して見えてきたこと」についての報告。</p> <p>自ら講師を務めた「楽器で遊ぼう！—楽器との出会いをもっと楽しく—」についての報告。</p> <p>土岐美野「どんぐりと山猫」、細田淳子「音であそぼう」、グループディスカッション「セミナーを振り返って」の報告。</p> <p>繁下和雄「オルフ来日の頃の日本の音楽教育界について」の報告。また、編集長として会報全体の編集に携わった。</p>

<p>6. オルフのちから—幼児の非認知能力を育む—</p>	<p>共著</p>	<p>2019年8月</p>	<p>『音と動きの研究』第47号（日本オルフ音楽教育研究会, 2019）, 16-17, 東京学芸大学</p>	<p>オルフの理念に基づいたオリジナル表現プログラムが、幼児の非認知能力に与える影響について検討した。オルフの音楽表現活動が実行機能に与える影響については、2か月間、オルフの音楽表現アイデア集から音楽表現遊びを1つ選択し、1日20分間実施した介入群と、普段と同じように絵本やゲーム、手遊びなどを実施した統制群を設定し、介入の前後で実行機能（感情抑制・シフティング・ワーキングメモリ）を5つの課題で測定した。介入群において実施されたオルフの音楽表現アイデア集の幼児期の実行機能への教育的効果についてエビデンスを示すことができた。その理由として、感情抑制については、音や身体の動きを通して、即興に表現する経験において自らの感情を調整する姿が見られ、この経験の積み重ねによって感情抑制が有意に高くなったと考えられる。さらに、ワーキングメモリについては、友達の即興表現を模倣する際に、その動きやリズムなどを瞬間的に記憶する姿を多くみられ、この経験がワーキングメモリの育ちに影響を与えたと考えられる。（水崎誠, 香曾我部琢, 永岡和香子, 本多峰和, 鈴木範之）</p>
<p>(国際学会発表)</p> <p>1. Effects of musical expression activities on the development of young children's executive functions</p>	<p>共著</p>	<p>2019年7月</p>	<p>Proceedings of Pecera (2019) , 558</p>	<p>音楽表現活動が幼児の実行機能の発達に与える影響について検討した。音楽表現活動プログラムをオリジナルに開発し、協力園で実践してもらい、実行機能の発達に与える影響について調査した。調査の結果、音楽表現活動が実行機能の感情抑制とワーキングメモリの発達を促していることが明らかにされた。一方で、シフティングの発達に関しては、音楽表現活動が影響を与えていないことが明らかにされた。（Taku Kosokabe, Makoto Mizusaki, Miwa Honda, Wakako Nagaoka, <u>Noriyuki Suzuki</u>, Yusuke Moriguchi）（共同研究のため担当部分抽出不可）</p>
<p>(国内学会発表)</p> <p>1. 「〈即興表現〉における学習のあり方に関する一考察—〈制約〉という観点を中心として」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年8月</p>	<p>音楽学習学会第2回研究発表講演論文集（埼玉大学）1～2頁</p>	<p>〈即興表現〉における学習のあり方を〈制約〉という観点から論究したものである。〈オルフ・アプローチ〉及び〈創造的音楽学習〉を例に挙げ、その〈制約〉の増減により、学習のあり方が異なることを提起した。〈制約〉が教育内容を規定する役割を担っているということも指摘し、〈即興表現〉実践の新たな視点として提起した。</p>

2. 「音楽科教科書における＜即興表現＞教材の検討」	単著	2006年11月	日本教材学会第18回研究発表大会研究発表論文集（日本大学文理学部）80～81頁	音楽科教科書における＜即興表現＞き教材の分析を通して、その特徴や問題点を明らかにし、＜即興表現＞教材のあり方について述べたものである。＜即興表現＞の学習構造を考察した上で、「＜即興表現＞における＜自由＞と＜制約＞」という観点から、数量的なアプローチと内容分析を中心としたアプローチにより、分類・整理を試みた。教科書における＜即興表現＞教材には継続性・系統性が希薄であるという問題点を導き出し、＜即興表現＞を＜創作＞領域のみならず、他領域との関連性を持たせることの重要性を提言した。
3. 音楽科教育における＜即興合唱＞導入の試み—グンナル・エリクソンの合唱指導事例から—	単著	2007年8月	音楽学習学会第3回研究発表講演論文集（埼玉大学）2～3頁	2007年3月のヨーテボリ大学（スウェーデン）研修プログラムにおけるグンナル・エリクソンの合唱演習における実践例に基づき、わが国の音楽科教育における＜即興合唱Körad lib＞導入の試案を提示した。
4. ＜即興＞の系統性に関する考察 —ABRSM プラクティカル・ミュージシャンシップ分析に基づいて—	単著	2011年8月	音楽学習学会第7回研究発表講演論文集（関西学院大学梅田キャンパス）8～9頁	英国王立音楽検定ABRSMのプラクティカル・ミュージシャンシップの分析を基に＜即興＞の学習過程の系統性について考察し論究したものである。音楽的要素による創作活動と音楽外的要素による創作活動の間にもどのような関係性があるかを考察し、その学習過程及び教育方法について論じた。
5. NPOとの連携による震災支援事業「こども元気プロジェクト」活動報告—参加から学びへの過程—	共著	2016年3月	第22回大学教育研究フォーラム発表論文集 p. 86-87	「こども元気プロジェクト」は、原発事故による放射能の被害を受けた親子への「遊び」を通じたメンタルケアを目的とした震災支援事業である。本報告では、主に実施プロセスと学生の学びへの効果を報告し、短期大学と地域NPOとの連携による活動からの学びの可能性を示した。 (鈴木範之, 安田尚道)
6. 『コードでかんたん！ピアノ弾き歌い80』を使用した指導実践	単著	2017年5月	日本保育学会第70回大会（川崎医療福祉大学）	拙著『コードでかんたん！ピアノ弾き歌い80』を使用した指導実践報告を行った。従前の片手伴奏による弾き歌いに比べ、両手伴奏を中心とした弾き歌い指導では使用するコードとリズムを確認するだけで容易に活動できることがメリットである。一方で歌唱の音程が取りにくいというデメリットもある。片手伴奏と両手伴奏のメリット、デメリットを勘案しながら、学生自身が能力と場面に応じて使い分けられることが重要であると提言した。

<p>7. ウクレレによる弾き歌い実践</p>	<p>単著</p>	<p>2019年5月</p>	<p>日本保育学会第72回大会発表論文集, 811-812(P-9-10), 大妻女子大学</p>	<p>保育ピアノの代替楽器の一つとしてウクレレの保育活用への展望を見出すため、ウクレレに対する学生の意識、楽器習得の難易度に関する学生の意識、ウクレレ導入に関する課題を明らかにすることを目的とした。以下の6点が明らかとなった。</p> <p>(1) 学生はウクレレを概ね「楽しい」「保育に活用できる」と感じている。(2) ピアノより短時間で習得できると感じる者もいる一方で、ウクレレの方が難しいと感じる者もいる。(3) ウクレレの難しさを感じる理由には「G7」が一つの壁になっている。2コードの場合はハ長調よりヘ長調の方が弾きやすい。(4) ウクレレ、ギター等の楽器導入の動機付けにもなりうる。(5) 保育活動の幅を広げる契機となりうる。(6) 環境・場面に応じた楽器等の選択ができる保育者の育成に繋がる。</p>
<p>8. 音楽教育が幼児期において実行機能に与える影響—音楽表現に対する保育者の意識の変容プロセス—</p>	<p>共著</p>	<p>2019年10月</p>	<p>日本音楽教育学会第50回東京大会プログラム, 172, 東京藝術大学上野キャンパス</p>	<p>『表現遊びのアイデア（オルフの基礎的音楽と動きの教育の考え方に基づく）』の実施に協力した保育者を対象として、活動に取り組む中での意識の変容プロセスを明らかにすることを目的とする。はじめてオルフの基礎的音楽と動きの教育の考え方に基づく表現遊びを経験した保育者が、活動の中でどのような意識の変容がみられたのかを明らかにした。保育者へのインタビューデータをSCATを用いて分析し、次のことが明らかとなった。「保育者の表現受容の成長プロセス」については、表現の多様性を許容できない自分から、子どもの長期的な成長を見守る姿勢の表れへと変容した。評価の伴う言動をしていた保育者は、子どもの表現しようとすることを察知して待つという姿勢の表れへと変容した。「子どもの表現生成の理解プロセス」については、クラスマネジメント優先の思考から、子どもの自己決定を待つ姿勢の表れへと変容が見られた。表現強制の憂慮については、肯定的・受容的な雰囲気が生み出す自由な表現への気づきへと変容が見られた。(鈴木範之, 香曾我部琢, 永岡和香子, 本多峰和, 水崎誠)</p>

<p>9. あそびうたづくりの授業実践—あそびうたに対する意識の変容プロセスに着目して—</p>	<p>単著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>日本保育者養成教育学会第4回研究大会プログラム・抄録集, 197, 福山市立大学</p>	<p>本研究は、あそびうたづくりを通して、あそびうたに対する学生の意識がどのように変容したか、また、「あそびうた発表会」を通じてどのような学びを獲得したかについて、レポート内容を分析し、明らかにした。分析には福士・名郷(2011)らによる分析方法を用い、切片化したデータをグループ化した上で言い換え、概念化をしていく手順で分析を進めた。「間」をつなぐためや手を膝にさせるために大人の都合で使うようなあそびうたの意識から、著作権への意識、一つのアソビの汎用性への気づき、子どもの興味関心から発展することができるあそびうたの可能性、他のアソビとの組み合わせによる新たなアソビへの発展可能性への気づき等が見られ、あそびうたづくりの意義が見いだされた。</p>
<p>10. 遠隔によるピアノ弾き歌い指導の実践的考察—KH Corder を用いた計量テキスト分析を通して—</p>	<p>共著</p>	<p>2021年3月</p>	<p>『日本保育者養成教育学会第5回研究大会プログラム・抄録集』(日本保育者養成教育学会) p. 60</p>	<p>ICTを活用したピアノ指導についてアンケート調査を行い、KH Corderを用いて計量テキスト分析した。アンケート調査から遠隔によるメリット・デメリットを導き出し、ハイブリッド型授業に生かすための活用方法について考察した。鈴木範之・阪まどか・藤岡由記による共同研究。</p>
<p>11. 明治期における保育ピアノ導入の一端を探る(1)—体操伝習所を中心に—</p>	<p>共著</p>	<p>2023年3月</p>	<p>『日本保育者養成教育学会第7回研究大会プログラム・抄録集』(日本保育者養成教育学会) p. 61</p>	<p>明治初期の幼児教育や音楽教育と強い繋がりを持った体操教育においてピアノが用いられていたことに注目し、本研究では文献調査にて体操伝習所設立の背景とピアノ導入の経緯を探り、西洋文化との接触において、軽体操とその音楽が日本の体操教員養成機関にどのように受容されたかを検討し、文化変容の一端を考察した。体操伝習所は1886(明治19)年に廃止されたが、体操伝習所で取り入れられたピアノ伴奏とともに心身ともに楽しく運動を行うという考えは、録音技術もなくピアノが高価で音楽教育が進んでいなかった当時に教育現場で広く伝播させることは困難であった。また、体操伝習所では徐々に兵式体操やスポーツを含めた戸外遊戯も奨励し、音楽伴奏は子どもや女性のための体操や遊戯へと継承された。(深澤南土実, 宮崎真利子, 鈴木範之, 阪まど</p>

<p>12. 明治期における保育ピアノ導入の一端を探る (2) — 楽器産業を中心に —</p>	<p>共著</p>	<p>2023年3月</p>	<p>『日本保育者養成教育学会第7回研究大会プログラム・抄録集』(日本保育者養成教育学会) p. 62</p>	<p>本研究では、明治期の音楽教育界に楽器産業がどのように介入してきたのかを明らかにすることを目的とするものである。音楽取調掛の設置後、低廉な国産楽器生産を急務としていた中で、国産オルガンの製造技術が急速に発達した。その状況下で、小学校でのピアノの普及を目指す伊澤の需要と、製作した楽器の販路拡大を企てる山葉の供給が一致したことにより、学校への楽器の普及拡大に繋がっていった。楽器販売を教科書・教材の販売会社の販売網を利用したことにより、全国の各種学校に円滑に楽器を納入することが可能になった。(宮崎真利子, 深澤南土実, 鈴木範之, 阪まどか)</p>
<p>13. 明治期における保育ピアノ教育の実際 (1) — 『ウルバヒ氏ピアノ教則本』を中心に —</p>	<p>共著</p>	<p>2023年5月</p>	<p>日本保育学会第76回大会発表論文集, P-269-270 (P-B-1-05), 熊本学園大学 (オンライン)</p>	<p>本研究では、音楽取調掛のカリキュラムにカール・ウルバハの“Prize Piano School” (以下、ウルバヒ) を導入したといわれる瓜生繁子の音楽教育に対する考え方について考察を試みた。瓜生が留学時代に受けた音楽教育、音楽取調掛のカリキュラム、ウルバヒの内容から明らかにしようとするものである。調査の結果、(1) 瓜生自身の学習経験およびアンサンブルに対する課題意識から必要性を感じたこと、(2) 編曲作品の充実からこの教材を選択したこと、(3) 総合的な学びへの期待として教材の適合性を感じたことなどがウルバヒ導入の契機となったことを導いた。(鈴木範之, 阪まどか, 宮崎真利子, 深澤南土実)</p>
<p>14. 明治期における保育ピアノ教育の実際 (2) — 『幼稚園唱歌』に見る唱歌ピアノ伴奏の変容について —</p>	<p>共著</p>	<p>2023年5月</p>	<p>日本保育学会第76回大会発表論文集, P-271-272 (P-B-1-06), 熊本学園大学 (オンライン)</p>	<p>本研究では、伴奏付き唱歌集の黎明期である明治後期に焦点を絞り、伴奏付き唱歌集の嚆矢とされる『幼稚園唱歌』の出版から童謡運動が起る大正期まで、幼児向け唱歌集の伴奏がどのような変遷をたどったのかを考察し、伴奏付き唱歌集の出現は、ピアノの必要性を助長し、今日のピアノ偏重保育へと歩みを進める一要因となったのかを探った。『幼稚園唱歌』出版以降、伴奏の難易度は上がり始め、それを使う保育者はそこに記された伴奏を弾けるだけの演奏技術を求められた。伴奏の難易度が上がるとその分求められる技術は上がっていく。その積み重ねにより幼児教育におけるピアノ演奏技術が求められるようになっていった経緯が明らかとなった。(阪まどか, 鈴木範之, 宮崎真利子, 深澤南土実)</p>

(演奏会・展覧会等)				
1. 第9回ニューイヤーオペラコンサート	共同	2004年1月	(財)日立市科学文化情報財団	日立シビックセンター音楽ホールにおいて、ブッチーニ：オペラ《蝶々夫人》等を演奏。オーケストラとのセッション前の練習ピアニストとして、指揮者：山館冬樹、演出家：田中孝男、ソプラノ：江口二美らと共に演奏した。
2. 第33回茨城県民コンサート(I)	単	2005年11月	茨城県芸術祭	茨城県つくば市ノバホールにおいて、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番へ短調作品57《熱情》第1楽章を演奏。茨城新聞社賞を受賞した。
3. 第16回ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」	単	2006年4月	(財)日立市科学文化情報財団	(財)日立市科学文化情報財団の依頼により、日立シビックセンター音楽ホールにおいて、ピアノ・ソロの演奏会を行った。＜ショパン：華麗なる大円舞曲作品18＞、＜吉松隆：プレイアデス舞曲集＞、＜ヒナステラ：アルゼンチン舞曲作品2＞等、「舞曲」を中心とした約30分のプログラムを演奏した。
4. 茨城県芸術祭「世界の名曲とオペラの楽しみ」	共同	2006年10月	茨城県民オペラ協会	茨城県オペラ協会の依頼により、常陸大宮市文化センターにおいて、＜團伊玖磨：夕鶴＞等を演奏。コレペティトールを務め、ソプラノ：高橋久美子、テノール：小林浩らと共に演奏した。
5. 茨城の名手・名歌手たち第19回	単	2008年10月	(財)水戸芸術振興財団	(財)水戸市芸術振興財団主催のオーディションを経て、水戸芸術館コンサートホールATMにおいて、ピアノ・ソロの演奏を行った。ショパン：《バラード第1番》などを演奏。
6. 平松悠歩・鈴木範之ピアノジョイントコンサート	共同	2009年3月	カフェ樹音	カフェ樹音(東京)サロンにおいて、ピアノ：平松悠歩と共にコンサートを企画・演奏。ショパン：《バラード第3番》などを演奏。
7. ソネタウラ・チャペル・コンサート	共同	2009年8月	茨城キリスト教大学大学院	茨城キリスト教大学大学院同窓会の依頼により、茨城キリスト教大学キアラ館(チャペル)において、ヴォーカル：水越詩織・三廻部結衣らとコンサートを企画・演奏。自らの編曲による《しゃぼん玉》(野口雨情作詞)などを演奏。
8. 平松悠歩・鈴木範之ピアノジョイントリサイタル	共同	2009年9月	カフェ樹音	カフェ樹音(東京)サロンにおいて、ピアノ：平松悠歩と共にジョイントリサイタルを企画・演奏。
9. 茨城県芸術祭「県民コンサート(I)」	単	2009年11月	ノバホール	茨城県主催のオーディションを経て、つくば市ノバホールにおいて、ピアノ・ソロの演奏を行った。カゼッラ：《シャコンヌによる変奏曲》を演奏。

10.	平松悠歩・鈴木範之 ピアノジョイントリ サイタル	共同	2010年3月	ラ・フォルテ	ラ・フォルテ(東京)において、ピアノ：平松悠歩と共にジョイントリサイタルを企画・演奏。J.S. バッハ＝ブゾーニ：《シャコンヌ》などを演奏。
11.	コミュニティー・コ ンサート	単	2010年6月	水戸聖書バプテスト 教会	水戸聖書バプテスト教会(水戸)の依頼により、ピアノコンサートを行った。ショパン：《プレリュード作品28-7》などを演奏。
12.	緑岡保育所 ピアノ コンサート	単	2010年9月	緑岡保育所	緑岡保育所(水戸)の依頼により、ピアノコンサートを行った。子どもの歌を中心に、約30分のプログラムを演奏。
13.	大田原市立金田南中 学校 声楽とピアノ のコンサート	共同	2010年10月	大田原市立金田南中 学校	大田原市立金田南中学校の依頼により、同中学校においてヴォーカル：岡村麻未(元劇団四季)・三廻部結衣(Mono-Musica所属、元劇団四季)らとコンサートを企画・演奏。＜ウィキッド・モレ＞などを演奏。
14.	龍ヶ崎市立長山中学 校 ピアノコンサ ート	単	2010年10月	龍ヶ崎市文化会館	龍ヶ崎市立長山中学校の依頼により、同中学校合唱コンクール審査員およびピアノコンサートを行った。
15.	ひたちジュニア弦楽 合奏団定期演奏会	共同	2010年10月	日立シビックセン ター音楽ホール	ひたちジュニア弦楽合奏団定期演奏会において、チェンバロを演奏。＜ヴィヴァルディ：アッラ・ルスティカ＞などを演奏。
16.	藤田まどか・鈴木範 之 ピアノジョイン トリサイタル	共同	2011年11月	日立シビックセン ター多用途ホール	日立シビックセンター多用途ホールにて、ピアノ：藤田まどかと共にジョイントリサイタルを企画・演奏。ショパン：《幻想即興曲》などを演奏。
17.	第37回茨城県新人演 奏会	単	2012年1月	ノバホール	財いばらき文化振興財団主催オーディションを経て、つくば市ノバホールにてピアノ演奏を行った。リスト：《波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ》を演奏。
18.	日立シビックセン ターアトリウムコン サート	単	2012年5月	日立シビックセン ターアトリウム	日立シビックセンターアトリウムにて、ピアノ・ソロを演奏。モーツァルト：《ロンド KV485》などを演奏。
19.	茨城レストラン フェリチタ ランチ タイム・コンサート	個人	2012年9月	茨城レストラン フェリチタ	茨城レストランフェリチタにて、ランチタイム・コンサートを企画・演奏。ドビュッシー：《月の光》などを演奏。
20.	鈴木範之ピアノ・リ サイタル	単	2012年10月	日比谷スタインウエイ サロン東京 松尾 ホール	日比谷スタインウエイサロン東京 松尾ホール(東京)にて、ピアノソロリサイタルを企画・演奏。ショパン：《24の前奏曲》、リスト：《波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ》、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番ハ短調《悲愴》作品13、モーツァルト：《ロンドKV485》などを演奏。
21.	パルティホールロ ビーコンサート2012 小さな音楽会	単	2012年11月	パルティホールロビー	パルティホールロビーにて、小さな音楽会を企画・演奏。ショパン：24の前奏曲作品28を演奏。

22. 鈴木範之ピアノ・リサイタル	単	2012年11月	水戸芸術館コンサートホールATM	(公財)水戸市芸術振興財団主催により、水戸芸術館コンサートホールATMにてピアノソロリサイタルを企画・演奏。ショパン：《24の前奏曲》、リスト：《波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ》、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番ハ短調《悲愴》作品13、モーツァルト：《ロンドKV485》などを演奏。
23. 2012クリスマスピアノ・コンサート	共同	2012年12月	Chez Claude ホールA	ピアノ：龍田邦恵、青野将、河本咲子と共に、ジョイントリサイタル形式によるコンサートを企画・演奏。J.S. バッハ＝ヘス：《主よ、人の望みの喜びを》、J.S. バッハ＝ブゾーニ：《シャコンヌ》を演奏。
24. ひたち光教会コンサート	単	2012年12月	ひたち光教会	ひたち光教会の依頼により、ピアノソロコンサートを実施。ショパン：前奏曲 ニ短調 作品28-24などを演奏した。
25. 鈴木範之&池田紗智恵ピアノジョイントコンサート	共同	2013年2月	日立シビックセンターアトリウム	ピアノ：池田紗智恵と共に、ピアノジョイントコンサートを企画・演奏。ベートーヴェン：ピアノソナタ第17番 ニ短調 作品31-2《テンペスト》などを演奏。
26. 日立市文化事業団懇談会ピアノコンサート	単	2013年6月	ホテル天地閣	日立市文化事業団の依頼により、ピアノソロコンサートを実施。ショパン：ノクターン遺作嬰ハ短調、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調作品27-2《月光》などを演奏。
27. フェリチタディナーコンサート	共同	2013年7月	茨城レストランフェリチタ	ヴォーカル：岡村麻未と共に、ディナーコンサートを企画・演奏。《魔法使いと私》などを演奏。
28. フェリチタランチコンサート	共同	2013年7月	茨城レストランフェリチタ	ヴォーカル：岡村麻未と共に、ランチコンサートを企画・演奏。自らの作曲による《星野富弘の詩による2つの歌曲》などを演奏。
29. 御茶の水キリストの教会コンサート	共同	2013年7月	御茶の水キリストの教会	御茶の水キリストの教会の依頼により、バリトン：マイケル・D. マクレインと共に教会コンサートを企画・演奏。ビゼー：オペラ《カルメン》より「闘牛士」などを演奏した。
30. 日立シビックセンターバギーコンサート	共同	2013年11月	日立シビックセンターアトリウム	ヴォーカル：岡村麻未と共に、乳児と保護者を主な対象としたバギーコンサートを企画・演奏。木下牧子（やなせたかし詩）：《犬が自分のしっぽを見て歌う歌》などを演奏した。
31. 常磐大学幼稚園コンサート	共同	2013年11月	常磐大学幼稚園	ヴォーカル：岡村麻未と共に、幼稚園児を対象としたコンサートを企画・演奏。《となりのトトロメドレー》などを演奏した。

32.	日立市出身者ピアニスト鈴木範之とミュージカル俳優岡村麻未によるミニライブコンサート	共同	2013年11月	日立シビックセンターアトリウム	ヴォーカル：岡村麻未と共に、日立シビックセンターアトリウムにてコンサートを企画・演奏。A. ロイド＝ウェバー：《ピエ・イエズ》などを演奏した。
33.	平成25年度茨城県近代美術館ミュージアムコンサート～歌とピアノで贈るひそやかな祝祭～	共同	2013年12月	茨城県近代美術館エントランスホール	茨城県近代美術館および公益財団法人いばらき文化振興財団の主催・依頼により、ヴォーカル：岡村麻未と共にミュージアムコンサートを企画・演奏。《踊り明かそう》などのヴォーカル曲の他、リスト：《波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ》などピアノ・ソロ3曲を演奏した。
34.	茨城キリスト教大学クリスマス特別礼拝&ピアノコンサート	単	2013年12月	茨城キリスト教学園キアラ館	茨城キリスト教学園の依頼により、クリスマスコンサートを企画・演奏。横山幸雄：《バッハ＝グノーの主題による即興》などを演奏した。
35.	あざみ野幼稚園コンサート	共同	2014年2月	あざみ野幼稚園（福島県いわき市）	ひたちNP0センター・with you主催の被災地復興支援事業こども元気プロジェクト2013として、コンサートを企画・演奏。A. メンケン：《パート・オブ・ユア・ワールド》などを演奏した。
36.	鈴木範之・河本咲子・青野将ピアノジョイントリサイタル	共同	2014年4月	小金井市民交流センター小ホール	ピアノ：河本咲子、青野将と共に、ジョイントリサイタルを企画・演奏。ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調作品27-2《月光》などを演奏した。
37.	ミュージカル俳優岡村麻未とピアニスト鈴木範之による歌とピアノのミニコンサート	共同	2014年6月	八王子市立散田小学校	八王子市散田小学校の依頼により、ヴォーカル：岡村麻未と共に、コンサートを企画・演奏。杉本竜一：《ヒリブ》などを演奏した。
38.	日立シビックセンターバギーコンサート	共同	2014年10月	日立シビックセンターアトリウム	ヴォーカル：岡村麻未と共に、乳児と保護者を主な対象としたバギーコンサートを企画・演奏。中西圭三：《ぼよよん行進曲》などを演奏した。
39.	第47回常陸太田市内小中学校音楽祭	共同	2014年11月	パーティホール	常陸太田市の依頼により、メゾソプラノ：天下井朱美、トランペット：班目加奈と共に、小中学校音楽祭の特別演奏として出演。クラーク：《ヴェニスの謝肉祭変奏曲》などを演奏した。
40.	日立シビックセンターアトリウムコンサート	単	2015年5月	日立シビックセンターアトリウム	日立シビックセンターアトリウムにて、ピアノ・ソロ演奏。ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第17番ハ短調作品31-2《テンペスト》などを演奏。

41. 鈴木範之ピアノ・リサイタル	単	2015年8月	日比谷スタインウェイサロン東京松尾ホール	日比谷スタインウェイサロン東京松尾ホール(東京)にて、ピアノソロリサイタルを企画・演奏。ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調《月光》作品27-2、第17番短調作品31-2《テンペスト》、第23番ハ短調《熱情》を演奏。
42. 宇都宮市立瑞穂野小学校芸術鑑賞会	共同	2015年10月	宇都宮市立瑞穂野小学校	宇都宮市立瑞穂野小学校の依頼により、芸術鑑賞会として、うたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
43. はみんぐぱーく・みと“のあのあ”うたってあそぼうコンサート	共同	2015年10月	多世代交流・子育て支援センター はみんぐぱーく・みと	はみんぐぱーく・みとの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
44. 日立シビックセンター バギーコンサート	共同	2015年10月	日立シビックセンターアトリウム	ヴォーカル：岡村麻未と共に、乳児と保護者を主な対象としたバギーコンサートを企画・演奏。絵本うた《おはよう！》などを演奏した。
45. みぎわ幼稚園・保育園職員研修会 みぎわ教会クリスマスコンサート	共同	2015年12月	みぎわ教会	みぎわ幼稚園・保育園の職員研修会としてコンサートを行った。エルガー：《愛の挨拶》などを演奏した。ヴァイオリン：木村裕子と共演。
46. はみんぐぱーく・みと“のあのあ”うたってあそぼうコンサート	共同	2015年12月	多世代交流・子育て支援センター はみんぐぱーく・みと	はみんぐぱーく・みとの依頼により、親子を対象にハンドベルコンサートおよびうたとピアノのコンサートを行った。TOKIWA HANDBELL CHOIR、ヴォーカル：岡村麻未と共演。
47. 吉田市民センター “のあのあ”クリスマスコンサート	共同	2015年12月	吉田市民センター	女性会の依頼により、親子を対象にうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
48. わんぱーく・みと うたとピアノのコンサート	共同	2015年12月	多世代交流・子育て支援センター わんぱーく・みと	わんぱーく・みとの依頼により、親子を対象にうたとピアノのコンサートを行った。シュベルト：《アヴェ・マリア》などを演奏。ソプラノ：根子瑠美と共演。
49. あざみ野幼稚園コンサート	共同	2016年1月	あざみ野幼稚園（福島県いわき市）	あざみ野幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
50. 銚田市立銚田北幼稚園コンサート	共同	2016年1月	銚田市立銚田北幼稚園	銚田市立銚田北幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
51. 平第一幼稚園コンサート	共同	2016年2月	平第一幼稚園（福島県いわき市）	ひたちNP0センター・with you主催の被災地復興支援事業こども元気プロジェクト2015として、コンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。

52. 日立市立かみちょう 保育園コンサート	共同	2016年2月	日立市立かみちょう 保育園	日立市立かみちょう保育園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
53. 岩間第一幼稚園コン サート	共同	2016年2月	岩間第一幼稚園	岩間第一幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
54. 東海村立村松幼稚園 コンサート	共同	2016年3月	東海村立村松幼稚園	東海村立村松幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
55. わんぱく・みと “ のあのあ” うたって あそぼうコンサート	共同	2016年3月	多世代交流・子育て 支援センター わん ぱく・みと	わんぱく・みとの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
56. わんぱく・みと “ のあのあ” うたって あそぼうコンサート	共同	2016年5月	多世代交流・子育て 支援センター わん ぱく・みと	わんぱく・みとの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
57. 鉾田市立旭南小学校 芸術鑑賞会	共同	2016年9月	鉾田市立旭南小学校	鉾田市立旭南小学校の依頼により、芸術鑑賞会として、うたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
58. わんぱく・みと10 周年、はみんぐぱ く・みと5周年プレ 事業 親子コンサ ート	共同	2016年10月	茨城県立県民文化セ ンター	公益財団法人水戸市シルバー人材センターの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未、みとびよ音楽隊と共演。
59. 日立シビックセン ター バギーコン サート	共同	2016年10月	日立シビックセン ターアトリウム	乳児と保護者を主な対象としたバギーコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
60. 日立市立おおせ保育 園コンサート	共同	2016年11月	日立市立おおせ保育 園	日立市立おおせ保育園の依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
61. 第49回常陸太田市 内小中学校音楽祭	共同	2016年11月	パルティホール	常陸太田市の依頼により、メゾソプラノ：天下井朱美、ヴァイオリン：前澤英美と共に、小中学校音楽祭の特別演奏として出演。
62. 常磐大学幼稚園コン サート	共同	2016年11月	常磐大学幼稚園	常磐大学幼稚園の依頼により、のあのあコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
63. 吉田市民センター “ のあのあ” クリスマ スコンサート	共同	2016年12月	吉田市民センター	女性会の依頼により、親子を対象にうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。

64. のあのあCHRISTMAS ☆LIVE!	共同	2016年12月	水戸プラザホテル	水戸プラザホテルにおいて、クリスマスコンサートを企画・演奏。 ヴォーカル：岡村麻未と共演。
65. 日立市立かねさわ保育園コンサート	共同	2017年1月	日立市立かねさわ保育園	日立市立かねさわ保育園の依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
66. のあのあアフタヌーン・カフェ・コンサート	共同	2017年1月	さくら茶房	さくら茶房の依頼により、アフタヌーン・カフェ・コンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
67. のあのあファミリーコンサート	共同	2017年2月	いわき市文化センター	ひたちNP0センター・with you主催、子どもの家保育園企画により、親子のためのファミリーコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
68. 高萩市立松岡幼稚園コンサート	共同	2017年2月	高萩市立松岡幼稚園	高萩市立松岡幼稚園の依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
69. 東海村立村松幼稚園コンサート	共同	2017年2月	東海村立村松幼稚園	東海村立村松幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
70. のあのあアフタヌーン・コンサート	共同	2017年4月	さくら茶房	さくら茶房の依頼により、アフタヌーン・コンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
71. あざみ野幼稚園コンサート	共同	2017年5月	あざみ野幼稚園（福島県いわき市）	あざみ野幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
72. 銚田市PTA親子でできるふれあいあそび&コンサート	共同	2017年6月	銚田市立大洋公民館	銚田市PTAの依頼により、親子でできるふれあいあそびおよびコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
73. 茨城町立青葉小学校コンサート	共同	2017年7月	茨城町立青葉小学校	茨城町立青葉小学校の依頼により、児童のための芸術鑑賞コンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
74. 日立市立かみちよう保育園コンサート	共同	2017年11月	日立市立かみちよう保育園	日立市立かみちよう保育園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。

75. わんぱく・みとコンサート	共同	2017年12月	わんぱく・みと	わんぱく・みとの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
76. 銚田市立銚田北幼稚園コンサート	共同	2017年12月	銚田市立銚田北幼稚園	銚田市立銚田北幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
77. 日高幼稚園コンサート	共同	2017年12月	日高幼稚園	日高幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
78. 常磐大学幼稚園コンサート	共同	2017年12月	常磐大学幼稚園	常磐大学幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
79. 日立市立おおくぼ保育園コンサート	共同	2018年1月	日立市立おおくぼ保育園	日立市立おおくぼ保育園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
80. 東海村立村松幼稚園コンサート	共同	2018年2月	東海村立村松幼稚園	東海村立村松幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
81. はみんぐぱく・みとコンサート	共同	2018年2月	はみんぐぱく・みと	はみんぐぱく・みとの依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
82. 桜ノ牧保育園コンサート	共同	2018年3月	桜ノ牧保育園	桜ノ牧保育園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
83. あざみ野幼稚園コンサート	共同	2018年5月	あざみ野幼稚園（福島県いわき市）	あざみ野幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
84. わんぱく・みと親子コンサート	共同	2018年5月	わんぱく・みと	わんぱく・みとの依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
85. 日立市立おおくぼ保育園コンサート	共同	2018年7月	日立市立おおくぼ保育園	日立市立おおくぼ保育園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。

86. 日高幼稚園コンサート	共同	2018年11月	日高幼稚園	日高幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。 ヴォーカル：青山志織と共演。
87. 銚田市立銚田北幼稚園コンサート	共同	2018年12月	銚田市立銚田北幼稚園	銚田市立銚田北幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：青山志織と共演。
88. 水戸ブロック保育協議会	共同	2018年12月	茨城県総合福祉会館	水戸ブロック保育協議会の依頼により、あそびうた&ハンドベルコンサートをを行った。TOKIWA HANDBELL CHOIRと共演。
89. あざみ野幼稚園コンサート	共同	2019年6月	あざみ野幼稚園（福島県いわき市）	あざみ野幼稚園の依頼により、親子のためのコンサートを企画・演奏。 ヴォーカル：岡村麻未と共演。
90. 水戸市立吉田が丘幼稚園コンサート	単	2019年10月	水戸市立吉田が丘幼稚園	水戸市立吉田が丘幼稚園において、親子のためのコンサートを実施した。
91. いばらき子ども大学	共同	2019年10月	茨城大学水戸キャンパス	いばらき子ども大学「あなたも美しい日本語を話す日本語美人になろう～日本語の話し方～」を開講。 ヴォーカル：岡村麻未と共演。
92. 東海村立舟石川幼稚園コンサート	共同	2019年10月	東海村立舟石川幼稚園	東海村立舟石川幼稚園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
93. 末長こども園コンサート	共同	2019年11月	末長こども園（川崎市）	末長こども園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。 ヴォーカル：岡村麻未と共演。
94. 日立市立みずき保育園コンサート	共同	2019年11月	日立市立みずき保育園	日立市立みずき保育園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
95. 大子町読書集会コンサート	共同	2019年11月	大子町中央公民館	大子町教育委員会の依頼により、小学5年生および中学1年生のための読書推進を目的としたコンサートを企画・演奏。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
96. パネルシアター講座	単	2019年11月	守谷中央図書館	守谷中央図書館の依頼により、おはなし会ボランティアの方々のためのパネルシアター講座を開講。

97. 子育て支援コンサート	単	2019年12月	水戸市笠原市民センター	水戸市笠原市民センターの依頼により、子育て支援コンサートを企画・演奏。
98. つくしんぼ保育園コンサート	共同	2019年12月	つくしんぼ保育園 (日立市)	つくしんぼ保育園の依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
99. わんぱく・みとクリスマスコンサート	共同	2019年12月	わんぱく・みと	わんぱく・みとの依頼により、親子のためのうたとピアノのコンサートを行った。ヴォーカル：岡村麻未と共演。
100. 日立市立みやた認定こども園コンサート	共同	2020年1月	日立市立みやた認定こども園	日立市立みやた認定こども園の依頼により、園児のためのコンサートを企画・演奏。パネルシアターサークル「パオパオ」と共演。
101. 茨城キリスト教大学附属認定こども園表現教育	単	2020年2月	茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園	茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園において、表現教育を実施した。
102. パネルシアター講座	単	2020年2月	守谷中央図書館	守谷中央図書館の依頼により、図書館司書の方々のためのパネルシアター講座を開講。
103. 茨城キリスト教大学附属認定こども園表現教育	単	2020年2月	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園において、表現教育を実施した。
104. 親子で楽しむ3歳からのコンサート	共同	2020年10月	ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホール	3歳児以上の親子で楽しめるパネルシアター、絵本、あそびうたなどによる60分のコンサートを企画・演奏。ミュージックユニット「のあのあ」として岡村麻未氏と共演。
105. 親子で楽しむ0歳からのハロウィンコンサート	共同	2021年10月	ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホール	乳児からの親子で楽しめるパネルシアター、絵本、あそびうたなどによる60分のコンサートを企画・演奏。ミュージックユニット「のあのあ」として岡村麻未氏と共演。
106. ことばのチカラフェスティバル2022～観て・聴いて・感じる ことばの祭典～コンサート		2022年8月	ザ・ヒロサワ・シティ会館会議室	いばらき文化振興財団主催「ことばのチカラフェスティバル2022～観て・聴いて・感じる ことばの祭典～」に、ミュージック・ユニット「のあのあ」として出演した
107. 親子ふれあいコンサート		2022年11月	東海村総合福祉センター「絆」	東海村児童センター主催「親子ふれあいコンサート」に、ミュージック・ユニット「のあのあ」として出演した。

108. わんぱく・みとクリスマス会		2022年12月	わんぱく・みと	水戸市子育て支援・多世代交流センター「わんぱく・みと」において、親子を対象としたクリスマス会を実施した。
109. 茨城キリスト教大学附属認定こども園表現教育		2023年1月 2023年2月	茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園 茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園	茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園・みらい園において、3歳児を対象とした表現教育を実施した。
110. 大洗音楽祭2023		2023年3月	トヨペットスマイルホール大洗	大洗町教育委員会主催「大洗音楽祭2023」（トヨペットスマイルホール大洗）に、ミュージック・ユニット「のあのあ」として出演した。

(招待講演・基調講演) 1.					
(受賞(学術賞等)) 1. 茨城県芸術祭「県民コンサート(I)」	個人	2009年11月	ノバホール	つくば市ノバホールにおいて、ピアノ・ソロの演奏を行った。カゼツラ：《シャコンヌによる変奏曲》を演奏。演奏の評価を受け、奨励賞を受賞した。	

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.						
(学内課題研究(各個研究)) 1.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.						